

2020年11月30日

DENSO KOBELCO SARD GR Supra 第8戦富士、不運なアクシデントで後退も 最後まで不屈の闘志を見せる

SUPER GT 第8戦富士レポート



2020 SUPER GT 第5戦「たかのこのホテル FUJI GT 300km RACE」(11/28-29)

富士スピードウェイ(1周4.563km)

11月29日(日)、SUPER GT第5戦「たかのこのホテル FUJI GT 300km RACE」の決勝が行われ、2番グリッドから不退転の覚悟でタイトル獲得に向けて突き進んでいったDENSO KOBELCO SARD GR Supraは、序盤に激しいポジション争いの中で、5周目第13コーナーからGR Supraコーナーにて36号車と接触。左側ボディワークに大きなダメージを負い、左リアタイヤもパンクしてしまう不運なアクシデントで最後尾まで後退。しかし交代した中山が諦めない走りの後半に10位とポイント圏内まで挽回する不屈の闘志の走りを見せた。だが終盤57周目にアクシデントの影響からクルマに不具合が生じて万事休す。速さはあったが最終的に14位でフィニッシュという非常に悔しい結果となった。

ドライバーポイントは獲得ならず、ランキング9位(計42点)。チームポイントでは1点を獲得し、ランキング8位(計64点)となった。新体制となった今季、最終戦までタイトル争いに加わり、戦う毎に強さを身につけてきたTGR TEAM SARD。来シーズンにつながる大きな成長振りを見せたシーズンとなった。

■事前情報

前戦では健闘の8位で貴重なポイントを獲得し、シリーズチャンピオン争いに踏みとどまったDENSO KOBELCO SARD GR Supra。いよいよ千秋楽、最終決戦となる第8戦の舞台は、今季4回目開催となる富士スピードウェイ。富士スピードウェイが最終戦に設定されるのは2008年以來となる。人数と観戦エリアや場内イベントが緩和されての開催で場内イベントとしては室屋義秀選手によるフライトパフォーマンスやピットビューイング/各種トークショー等が予定されている。11月27日(土)午前に公式練習、午後にはノックアウト方式(Q1、Q2)の公式予選で、28日(日)決勝は13時スタートの300km(66周:約2時間)で争われ、ドライバー交代を伴うピットストップは1回が義務付けで、ウェイトハンディはすべてリセットされ0kgで各車イコールの真っ向勝負となる。



今季第5戦で優勝を飾った験の良い富士スピードウェイ。現在ドライバーランキングでトップとは9点差、チームランキングでは6点差であり、タイトルへは表彰台獲得は必須条件であるが、戦う毎に強さを身につけてきているDENSO KOBELCO SARD GR Supraにとって今季2度目の勝利を飾る実力はつけてきている。予選から凄まじくシビれるような展開が予想されるが、グリッド前方を獲得する第一関門を何とかクリアし、強さを見せる決勝においては速さに定評のあるインラップ~ピット作業~アウトラップを武器に表彰台圏内を堅守し、勝利を成し遂げたいところ。脇阪寿一監督のもとチーム一体となって、不退転の覚悟でタイトル獲得に向けて突き進んでいった。

■公式練習走行

28日（土）公式練習走行は9時から開始。朝から見事に晴れ渡り澄んだ空気となった快晴の中、気温14度/路面温度16度とこの時期らしい寒さで風が冷たいドライコンディションの中、85分間の混走セッションが開始された。ヘイキがまずは持ち込んだタイヤのうちソフト側のタイヤを装着してクルマとタイヤのパフォーマンスをチェック。開始から5周目に、このアウティングでのベストとなる1分28秒273とその時点で2番手タイムを刻む。続いてハード側のタイヤを装着して6周目に、何度も遅いクルマに引っかかりながらも、このアウティングベストとなる1分27秒342のトップタイムを刻み、持ち込みセットの調子の良さをアピール。15周目から中山がソフト側タイヤのリピート評価とロングランチェックを実施。29秒台の良いペースで走行した。30周目からハード側のタイヤで更にセット調整を織り込みながらロングラン評価を実施。ハード側タイヤのロングランが思ったよりもペースが上がらず、データから評価を入念に行うこととなった。混走セッションはヘイキがマークした1分27秒342の2番手に。10分間のGT500単独セッションでは、中山がハード側のニュータイヤを装着してアタックシミュレーションを実施。高いパフォーマンスを見せ、1分26秒792の2番手タイムと気を吐いた。公式練習走行ではトータル52周を走行して2番手となった。



■公式予選

■Q1：中山が4位で見事Q1突破

28日（土）13時48分に始まったQ1開始時点で気温13度/路面温度17度の晴れ。陽が陰ると路気温が下がる低温のコンディション。残り8分ほどでコースインした中山は、公式練習走行でグリップ感とロングの安定感のあったソフト側タイヤを装着。しっかりとタイヤに熱を入れていき、4周目にアタックラップに入った中山は、各セクターで自己ベストを刻んで1分27秒071の好タイムを刻む。続く、5周目に中山は更に渾身のアタックでセクター1で自己ベストをコンマ1秒削り、セクター2でもコンマ1秒も削る気合いを見せたが最終セクターでグリップダウンが始まってしまい4周目のタイム更新できずも、非常に僅差の争いとなったQ1を見事に4位で突破して見せた。



■Q2：ヘイキが流石の走りで2つ順位を上げる2番グリッドを獲得

Q2開始時点では若干気温が下がり、気温13度/路面温度15度。中山の走行データとタイヤの使い方についてのアドバイスを参考にクルマに乗り込んだヘイキ。Q1をじっくりと丁寧にタイヤに熱を入れていき、4周目にアタックに入ったヘイキは、セクター1で中山とほぼ同タイムで駆け抜けると、セクター2ではコンマ2秒削るセクター全体ベストを刻み、期待が高まった最終セクターも同じく38秒台を切ろうかという勢いを見せその時点で暫定トップに躍り出る1分26秒753を記録。続く5周目もアタックを敢行。セクター1でコンマ1秒削る速さを見せたが、この後のセクターは惜しくもタイム更新ならず。セッション最後にシリーズリーダーの37号車にP.Pを譲ったが、白熱したQ2で、ヘイキは流石の走りでQ1から2つ順位を上げ、2番グリッドを獲得した。



■決勝

■ウォームアップ走行

29日（日）11時30分から開始されたスタート前20分間のウォームアップ走行は、朝から冷え込み、気温9度/路面温度16度に。まず中山が決勝用セットの確認とタイヤのベディングのため1周走行。続いてスタート担当のヘイキが2周目から決勝ペースを確認。調子の良さを証明するかのように6周目にはトップタイムを叩き出した。最後に中山が勝負どころとなるアウトラップのシミュレーションを実施。ウォームアップ走行は、トータル9周を走行。6周目にマークした1分29秒528でトップとなった。

■決勝レース

第1ステイント：ヘイキが不運なアクシデントで後退を喫す

29日（日）13時決勝スタート時点は気温9度/路面温度17度と非常に寒くなった。グリッド上は人数限定ながらゲストも戻り、レースクイーンも6名のフルメンバーがようやく今季初めて揃って華やかな雰囲気に戻ってきた。当初フォーメーションラップ2周としていたが、隊列が整わずに異例の3周行われることに。レースは65周でチェッカーと1周短縮された。2番グリッドから不退転の覚悟でタイトル獲得に向けて突き進んでいったDENSO KOBELCO SARD GR Supraは、1コーナーこそ先頭集団は整然とクリアして行ったが、その後23号車が追い上げを見せ、序盤から混乱する出だしとなった。荒れた異様な雰囲気の中で各コーナーで接触をいとわない激しいポジション争いの中で、5周目第13コーナーからGR Supraコーナーにて36号車が激しく接触してきて、左側ボディワークやフロアにまで大きなダメージを負い、左リアタイヤもパンクしてしまう不運なアクシデントに襲われてしまう。緊急ピットインでタイヤ交換とリペアを施して戦列に復帰したが、最後尾まで後退。その後もダメージの影響でクルマのバランスが大きく崩れてしまい、なかなか元のペースでは走ることは困難な状況に陥ってしまう。苦境となった中で、最少周回数となる22周を終えて中山と交代するべく、ヘイキをピットに呼び戻した。



第2ステイント：中山が不屈の闘志で一時10位に挽回も、トラブルで万事休す

厳しい状況に追い込まれクルマも手負いの状態となってしまったが、いつも通りの素早いピットワークで中山を送り出す。交代した中山も諦めない走りでアウトラップから攻め続け、回りのクルマがタイヤに状況に苦しむ中、50周目には10位とポイント圏内まで這い上がって挽回する不屈の闘志の走りを見せた。逆境にもかかわらず前に突き進む中山であったが、チェッカー間近の57周目にアクシデントの影響からかクルマに不具合が生じ再び緊急ピットインで万事休す。最終的に14位でフィニッシュという非常に悔しい結果となった。ドライバーポイントは獲得ならず、年間ドライバーズランキング9位（計42点）。チームポイントでは1点を獲得し、年間チームランキング8位（計64点）となった。新体制となった今季、最終戦までタイトル争いに加わり、戦う毎に強さを身につけてきたTGR TEAM SARD。来シーズンにつながる大きな成長振りを見せたシーズンとなった。





■ハイキ・コバライネン

「クルマの状況は抜群に良くて公式練習走行から良い流れで来ていたから勝利への手応えを感じていたけど、決勝5周目にヒットされてピットインを余儀なくされて順位を失って、最後はトラブルで非常に残念な今季の終わり方となってしまった。今季は異例な7月開幕で特殊なシーズンであったけれども、第5戦富士で優勝できて、最後までチャンピオンシップを戦えたことに、ジュイチサンを始めチームと、ドライビングパートナーのユウイチサンにとっても感謝しているし、最後まで我々を信じて声援を送ってくれたパートナーやファンの皆さんに対して心から感謝している。また来シーズン、日本で走れることを楽しみに、このオフシーズンは久しぶりの故郷を楽しんでくるよ」



■中山 雄一

「チーム全員で話し合い、持ち込んだマシンは今季で一番調子良く、決勝を楽しみにしていました。序盤の接触で戦線離脱かと思いましたが、後半の自分のスタントでは他車もタイヤが厳しい状態で10位まで順位を戻すことができただけに残念です。最終戦は最後まで強い戦いをして存在感を示したかったので、非常に悔しい結果になってしまいました。解決すべきことが山積みです。大変なシーズンとなりましたが、皆さんの応援をありがとうございました。応援していただいた皆様がもっと楽しい思いをもらえるようなレースを来年は見せられるようにがんばります」



■監督 脇阪 寿一

「最後はTGR勢にまさかの厳しい結果になりました。我々も予選まで最高の仕上がりでクルマを持ち込んで、決勝は厳しい結果にこそなりましたが、優勝を狙って攻めの姿勢を貫き挑戦することができたことは、来シーズンに向けて大きな糧となりました。また最終戦の劇的な幕切れを見ても分かる通り、このSUPER GTはギリギリまで攻めてほんの僅かな差で勝敗が決まる非常に高度なレベルの戦いになっていることを改めて思い知らされました。今季新体制のチームとして苦しみながらも上位を目指して一丸となって戦い抜けたことは大きな財産で、全力で戦い抜いたドライバー、メカニック、スタッフにまずはありがとうと伝えたく、彼らを誇りに思います。また、いつも私どもを応援してくださる皆様と大勢のファンの皆様に感謝申し上げます。来季に向けて一層の切磋琢磨して必ずやタイトル奪回をして、皆様を笑顔にしたいと思えます。引き続きご支援ご声援のほどよろしくお願い申し上げます」

■Qualifying Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time	WH
1	37	KeePer TOM'S GR Supra	平川 亮／山下 健太	*R 1'26.386	0
2	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	H.コバライネン／中山 雄一	* 1'26.753	0
3	36	au TOM'S GR Supra	関口 雄飛／S.フェネストラズ	* 1'26.841	0

天候：晴れ、コース：ドライ、Timeの*印はQ2ベスト

■Race Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time/Diff	Laps
1	100	RAYBRIG NSX-GT	山本 尚貴／牧野 任祐	1:40'38.010	65
2	37	KeePer TOM'S GR Supra	平川 亮／山下 健太	+5.940	65
3	36	au TOM'S GR Supra	関口 雄飛／S.フェネストラズ	+16.060	65
14	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	H.コバライネン／中山 雄一	5 Laps	60

天候：晴れ、コース：ドライ、4.563km×65Laps

Drivers Ranking

Pos.	No.	Driver	Total
1	100	塚越／バゲット	69
2	37	平川	67
3	17	塚越／バゲット	59
9	39	中山	42
11	39	コバライネン	31
18	39	山下	6
19	39	阪口	5

Point standings after Rd.8

Team Ranking

Pos.	No.	Team	Total
1	100	TEAM KUNIMITSU	90
2	37	TGR TEAM KeePer TOM'S	86
3	17	KEIHIN REAL RACING	80
8	39	TGR TEAM SARD	64

Point standings after Rd.8

Partners



情報参照先

- サード公式サイト : <http://www.sard.co.jp>
- SARD Facebook : <https://www.facebook.com/SARD.Corporation>
- SARD Twitter : https://twitter.com/SARD_Racing
- SARD Instagram : https://www.instagram.com/team_sard/
- SARD YouTube : <https://www.youtube.com/channel/UCb5NIgwwcB7MtooRFaF5FVA>
- SUPER GT : <http://supergt.net/jp/>

■ 本リリースに関するお問い合わせ先：チーム広報担当：宮本 e-mail: media@sard.co.jp